

地域総合演習

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

高橋 晋一・教授 (兼任) / 社会創生学科

【授業目的】 この授業は、文化人類学・民俗学的手法を用いて地域研究を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者には文化人類学・民俗学の基礎概念を修得してもらうとともに、実際に自ら研究テーマを設定し調査研究(フィールドワーク)を進め、レポートを書くという経験を通して、文化人類学・民俗学的研究の視点と実践能力を体得してもらう。

【授業概要】 文化人類学・民俗学ゼミナール

【キーワード】 文化人類学, 民俗学, 地域文化, フィールドワーク

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 [関連科目]

【履修上の注意】 地域総合演習(後期開講, 高橋担当)とあわせて通年で受講すること。

【到達目標】 文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、レポートにまとめることができる。

【授業計画】

1. 3 年次では、受講者各自の関心に応じて研究テーマを設定し、実際の調査(フィールドワーク)を行い、レポートを作成するという作業を通して、地域調査に関する実践的な能力を高めていく。前期のゼミナールにおいては、最初のステップとして、自分が興味や関心を持つテーマの研究動向を概観するため、いくつかの研究論文を選び、内容をまとめて発表する。次に、取り上げた研究分野の中から具体的なテーマやフィールドを設定し、調査や分析の方法を検討しながら、実際の調査に向けた準備を行う。
2. 授業ではあわせて、文化人類学・民俗学の調査方法(フィールドワーク)、研究の視点・方法に関する文献の輪読を進め、調査・研究を主体的に進める上での基礎能力を涵養していく。

【成績評価】 授業への取り組み状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。

【再試験】 行わない。

【教科書】 教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考書】

- ◇ 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣, 2001 年
- ◇ 伊藤亜人『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣, 2007 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社, 2007 年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220256>

【連絡先】

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜 12:00-13:00)

地域総合演習

2 units (selection) 3rd-year(1st semester)

Shinichi Takahashi · PROFESSOR (BY-WORK) / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

Target) この授業は、文化人類学・民俗学的手法を用いて地域研究を進めていこうと考えている学生を対象としている。受講者には文化人類学・民俗学の基礎概念を修得してもらうとともに、実際に自ら研究テーマを設定し調査研究(フィールドワーク)を進め、レポートを書くという経験を通して、文化人類学・民俗学的研究の視点と実践能力を体得してもらう。

Outline) 文化人類学・民俗学ゼミナール

Keyword) *cultural anthropology, folklore, regional culture, fieldwork*

Fundamental Lecture) [先行科目]

Relational Lecture) [関連科目]

Notice) 地域総合演習(後期開講、高橋担当)とあわせて通年で受講すること。

Goal) 文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて、適切な方法による調査や分析をおこない、レポートにまとめることができる。

Schedule)

1. 3年次では、受講者各自の関心に応じて研究テーマを設定し、実際の調査(フィールドワーク)を行い、レポートを作成するという作業を通して、地域調査に関する実践的な能力を高めていく。前期のゼミナールにおいては、最初のステップとして、自分が興味や関心を持つテーマの研究動向を概観するため、いくつかの研究論文を選び、内容をまとめて発表する。次に、取り上げた研究分野の中から具体的なテーマやフィールドを設定し、調査や分析の方法を検討しながら、実際の調査に向けた準備を行う。
2. 授業ではあわせて、文化人類学・民俗学の調査方法(フィールドワーク)、研究の視点・方法に関する文献の輪読を進め、調査・研究を主体的に進める上での基礎能力を涵養していく。

Evaluation Criteria) 授業への取り組み状況と討議への参加意欲、報告内容の完成度をもとに評価する。

Re-evaluation) 行わない。

Textbook) 教科書は使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

Reference)

- ◇ 伊丹敬之 『創造的論文の書き方』有斐閣、2001年
- ◇ 伊藤亜人 『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣、2007年
- ◇ 佐藤郁哉 『フィールドワーク増訂版』新曜社、2007年